

## 五家荘の偉人・佐倉 宗吾（さくら そうご）伝説 （泉第八小学校児童への講話）

八代市泉町葉木在住 民宿・佐倉荘経営 緒方 勢一

五家荘の偉人

### 佐倉宗吾 伝説



佐倉荘 緒方勢一



みなさん、こんにちは。佐倉荘の緒方です。きょうは、みなさんに、農民から神様と言われた人のお話をしたいと思います。……。

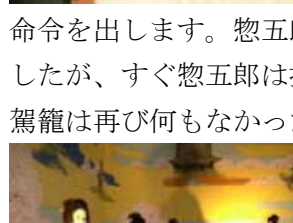
さて、みなさんは、この人を知っていますか？この人の名前は、佐倉宗吾（さくらそうご）といって、大変有名な人です。本当の名前は、木内惣五郎（きうちそうごろう）といいます。

惣五郎は、むかしの江戸時代つまり、お侍さんの時代に、下総国（しもうさのくに）佐倉藩（現在の千葉県）のもとで名主（なぬし）つまり今で言えば町長さんとか市長さんのような仕事をしていました。

その頃、佐倉藩では今でいう税金となる米や野菜が殆どできない不作が何年も続きました。村の人たちは食べるものが無く死んでしまう人が出るくらい苦しんでいました。

人々の苦しむ姿を見た惣五郎は、税金を減らしてくれるように役人に頼みましたが、聞き入れてもらえませんでした。惣五郎は村人の足りない分を自分で出したのですが、それでも、まだ足りないのです。何度も何度も税金を減らすように頼みましたが、全く聞き入れてもらえませんでした。それどころか、もっと税金を納めるように命令をされました。

絶望した村人たちは死ぬことを覚悟で戦う一揆をしようと言いましたが、惣五郎は、絶対に死人を出してはいけないと必死になって止めました。



惣五郎は、何人かの名主たちと相談して將軍様つまり今でいう総理大臣に直接会ってお願いすることにしました。でも、その行いは厳しく禁止されており、死刑となる決まりになっています。

惣五郎は、そのことも知っていたので誰にも言わずに一人で実行することを決めたのです。罰が家族にかかることを考えて、お嫁さんと離婚し、子どもたちも嫁の実家に帰し、泣き叫ぶ子どもと別れて宗吾は誰にも分からないように佐倉藩を抜け出しました。

次の日、宗吾の目の前を將軍様の行列が通りかかりました。將軍様（家綱）の駕籠が目の前にきたところで、惣五郎は飛び出しました。

「お願いでございます。」

「お願いでございます。」

一瞬、將軍様の駕籠が止まります。直ちに惣五郎は取り押さえられます。駕籠の中の將軍様は、そばにいた者に短い命令を出します。惣五郎の手紙は、その者が受け取りましたが、すぐ惣五郎は捕まえられました。そして將軍の駕籠は再び何もなかったかのように動き出しました。

お城に戻ってから手紙を読んだ將軍の命令により税金が3年間減られ、村人たちは惣五郎のお陰でやっと普通の生活に戻り、とても感謝しました。

ところが惣五郎は決まりを破ったということで死刑にすることが決まったのです。村人たちは全員で惣五郎の命を助けてくれるように一生懸命に



頼みましたが、聞き入れてはもらえず、とうとう次の年の9月3日に村中の人たちが手を合わせ念仏を唱える中で惣五郎は磔（はりつけ）、子どもは打ち首にされて殺されました。



が過ちを認め、惣五郎に



この話は今でも本や歌舞伎・劇でも取り上げられるほど日本で有名な話になっています。のちに佐倉藩主の堀田正晃（ほったまさすけ）「宗吾道閑居子そうごどうかんこじ」の法号（ほうごう）を与えたので、それ以来、村人達から「宗吾様」と呼ばれるようになりました。

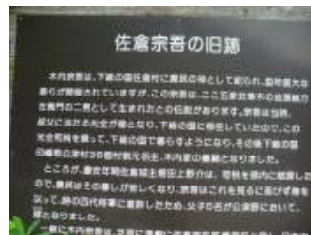
このお寺は、その佐倉宗吾の霊をまつる堂がある千葉県の東勝寺（とうしょうじ）です。

東勝寺の中に、大変立派な佐倉惣五郎の墓があります。

これは、佐倉宗吾郎記念館です。惣五郎について詳しい資料が飾ってあります。

これは、東勝寺の本堂に向かう参道です。

そして、これが本堂です



本堂では、佐倉宗吾の供養が毎年行われ、たくさんの参拝者が訪れています。

ところで私が、なぜ皆さんに、佐倉宗吾の話をすると思いますか？

皆さんは、この石碑をどこかで見たことはありませんか？

そうです。佐倉荘のすぐ近くに立っています。思い出しましたか。実は、その石碑に、すごいことが書いてあるんです。後で説明しますね。

その石碑の横の石段を登っている途中にも佐倉宗吾のことを説明してあるボードが見えてきます。

40段くらいの階段を上り終えた所に、大きなご神木に囲まれて、ひっそりと佐倉宗吾をまつる祠（ほくら）が見えてきます。

ここに立つと、いつの間にか心の中が落ち着くと誰もが言います。

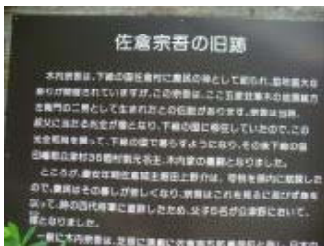
薄暗い祠（ほくら）の中に入ると、真っ暗で見えにくいですが佐倉宗吾のご神体が祀って（まつって）あるのです。



一体なぜ、ここに佐倉宗吾が祀ってあるのでしょうか？佐倉宗吾と五家荘は何か関係があるのでしょうか？……。



古い本を読めば佐倉宗吾は、五家荘葉木の役人である緒方左右衛門（さえもん）の次男坊として生まれ、五家荘で育ったことなどが詳しく書いてあるのです。実は、佐倉宗吾が生まれ育った家のあったところが今の佐倉荘なのです。そのことが佐倉荘の前の塀や、すぐ横の石碑に詳しく書いてあります。



最初は、緒方惣吾郎という名前でした。下総（しもうさ）の国に引っ越ししていた叔父さんの光全和尚（こうぜんおしょう）を頼って下総を訪れ、木

内（きうち）家の養子となったので、名前が木内宗吾郎に変わったのです。宗吾は、今でも千葉県に住む人たちから神様のように思われています。



ところで、おじさんの名前を知っている人はいますか。おじさんの名前は、「緒方勢一」と言います。何か気づきませんか？……そうです。宗吾もおじさんも名字は同じ「緒方」です。つまり、おじさんは宗吾と親戚なのです。おじさんは、宗吾の活躍をととても誇りに思っています。だから、いま宗吾の生まれ育った場所で佐倉荘という名前で民宿をしているのです。佐倉宗吾は、五家荘の出身です。みなさんの大先輩でもあります。



おじさんの願いは一つ、是非みなさんに五家荘のことをもっともっと知って五家荘大好き人間になってもらいたいと思っています。



そして、佐倉宗吾のように周りの人の幸せを思って行動できるような立派な人になって欲しいと心から願っています。



これで、おじさんのお話を終わります。

平成22年3月4日

（文責 八代市立泉第八小学校長 米多 等）